

進路と学習を考える

前高ジャーナル



発行 群馬県立前橋高等学校
(編集 進路指導部)
〒371-0011 群馬県前橋市下沖町 321-1
TEL: 027-232-1155 FAX: 027-233-1046
Email: maebashi-hs@edu-g.gsn.ed.jp

2026 年度大学入試を振り返って

◆2026 入試トピック◆

○共通テスト新課程 2 年目で平均点大幅ダウン

1. 大学入学共通テスト

令和 8 年 1 月 17 日(土)・18 日(日)の日程で大学入学共通テストが行われた。志願者数は 496,237 人と前年度より 1,066 人増加したが、3 年連続で 50 万人を下回っている。現役志願率は 44.1% となり、依然として現役中心の入試傾向が継続している。

新課程入試 2 年目となった今回は多くの科目で難化が見られ、全体の得点率は全国・前高生ともに前年度を下回った(【表 1】)。科目別では、化学(+11.6 点)や歴史総合、日本史探究(+5.3 点)で平均点が上昇した一方、物理(-13.4 点)、情報 I(-12.7 点)、国語(-10.3 点)、数学 I A(-6.3 点)などの大幅な下落が目立った(【表 2】)。

前高生の受験会場は高崎経済大学であった。得点率は昨年度より低下したが、全国平均(文理とも 60%)と比較すると依然として高い水準を維持している(【表 1】)。

2. 国公立大学二次試験

国公立大学の志願者数は全国的に減少傾向にあり、国立・公立合わせて前年比で約 9,000 人以上の減少となった(【表 3】)。倍率も 4.3 倍と前年度を下回っている。

【表 3】国公立大学志願状況(独自日程は除く)<全国>

| 設置 | 2025 年度 | | | 2026 年度 | | | 志願者前年比 |
|----|---------|---------|-----|---------|---------|-----|--------|
| | 募集人員 | 志願者数 | 倍率 | 募集人員 | 志願者数 | 倍率 | |
| 国立 | 75,754 | 299,739 | 4.0 | 75,079 | 294,666 | 3.9 | -5.073 |
| 公立 | 22,482 | 128,762 | 5.7 | 22,320 | 124,592 | 5.6 | -4.170 |
| 計 | 98,236 | 428,501 | 4.4 | 97,399 | 419,258 | 4.3 | -9.243 |

駿台資料による

【表 1】共通テスト得点率

| 年度 | 全国* | | 前高 | |
|------|-----|-----|-----|-----|
| | 文系 | 理系 | 文系 | 理系 |
| 2022 | 56% | 57% | 68% | 68% |
| 2023 | 59% | 61% | 70% | 72% |
| 2024 | 60% | 62% | 72% | 72% |
| 2025 | 62% | 63% | 73% | 74% |
| 2026 | 60% | 60% | 71% | 69% |

*2024 年以前は 5 教科 900 点、2025 年以降は 6 教科 1000 点満点で換算

*ベネッセ・駿台による平均点推測値から算出

【表 2】主要科目の平均点<全国>

| 年度 | 2025 | 2026 | 差 |
|------------|-------|-------|-------|
| 国語 | 126.7 | 116.4 | -10.3 |
| 歴総,世探 | 66.1 | 60.9 | -5.2 |
| 歴総,日探 | 57.0 | 62.3 | 5.3 |
| 地総,地探 | 57.5 | 61.9 | 4.4 |
| 数学 I A | 53.5 | 47.2 | -6.3 |
| 数学 II BC | 51.6 | 54.5 | 2.9 |
| 物理 | 59.0 | 45.6 | -13.4 |
| 化学 | 45.3 | 56.9 | 11.6 |
| 生物 | 52.2 | 55.0 | 2.8 |
| 英語(リーディング) | 57.7 | 62.8 | 5.1 |
| 英語(リスニング) | 61.3 | 54.7 | -6.6 |
| 情報 | 69.3 | 56.6 | -12.7 |

大学入試センター発表資料による

難関国立 10 大学においても、志願者が増加したのは大阪大のみで他の 9 大学では減少した。また東京大では前年度に続き全科類で足切り(第 1 段階選抜)が実施された。

前高生の合格状況については、現役の国公立大合格者数が 139 名であった(【表 4】)。難関国立 10 大学の合格実績は 24 名と昨年に比べて減少してしまったが、東京大に関しては受験者 16 名のうち 9 名が見事合格を果たすなど例年以上の結果を残した。

卒業生総数に対する私立大学出願数は、1 人約 6.9 と例年並の水準であり、押さえとなる大学を確保しつつ第一志望の国公立大の受験に挑むという姿勢が定着している。丁寧な面談や各種の発行物、学年集会などを通して高い目標を持つ姿勢を保たせた学年の指導が功を奏したと思

われる。また、国公立大医学部医学科についても、学校推薦型選抜を含め現役で 11 名が合格。既卒生も京都大 1 名、東京科学大 1 名合格など、最後まで高い目標を掲げた生徒たちの健闘が光った。

3. 私立大学一般入試

私立大学の延べ志願者数は前年度から約 9% 増加し、約 360 万人前後となる見込みであるが、実受験数が増えているわけではなく 1 回の出願で複数の入試方式に出願できるセット出願の増加が主な要因である。系統別では法、国際、総合科学、歯学系が人気を集める一方で、保健衛生学系は志願者が減少した。前高の卒業生総数に対する合格率は国公立大も含めて 85% と高い水準を保っており、多様な入試方式を戦略的に活用した結果といえる。

今年 4 月作成の「進路概況」の一部を前高 Web ページに掲載しています。また、6 月発行予定の『進学の手引』資料編に全データを掲載します。

【表 4】国公立大学合格状況<前高>

| 設置 | 現浪 | 2022 | 2023 | 2024 | 2025 | 2026 |
|----|----|------|------|------|------|------|
| 国立 | 現 | 165 | 127 | 134 | 141 | 122 |
| | 浪 | 32 | 34 | 35 | 30 | 27 |
| 公立 | 現 | 18 | 11 | 16 | 16 | 17 |
| | 浪 | 4 | 3 | 5 | 0 | 2 |
| 計 | 現 | 183 | 138 | 150 | 157 | 139 |
| | 浪 | 36 | 37 | 40 | 30 | 29 |

令和 8 年 4 月作成「進路概況」による

【表 5】難関国立 10 大学合格状況

| 大学 | 2022 | 2023 | 2024 | 2025 | 2026 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 北海道大 | 9(4) | 6(2) | 10(7) | 9(8) | 4(1) |
| 東北大 | 23(22) | 13(10) | 10(9) | 24(21) | 13(11) |
| 東京大 | 11(10) | 5(3) | 7(6) | 6(5) | 9(9) |
| 東京工業大 | 3(3) | 1(1) | 2(1) | - | - |
| 東京科学大 | - | - | - | 1(1) | 1(0) |
| 一橋大 | 1(1) | 1(1) | 3(2) | 2(2) | 2(2) |
| 名古屋大 | 3(2) | 3(2) | 0(0) | 2(1) | 2(0) |
| 京都大 | 8(5) | 7(7) | 4(3) | 4(3) | 2(1) |
| 大阪大 | 2(2) | 0(0) | 4(3) | 3(3) | 1(0) |
| 神戸大 | 1(1) | 2(1) | 1(1) | 2(2) | 0(0) |
| 九州大 | - | 1(-) | 2(1) | 0(0) | 0(0) |
| 計 | 61(50) | 39(27) | 43(33) | 53(46) | 34(24) |

令和 8 年 4 月作成「進路概況」による

* 数字は現役+既卒生(現役)。-は出願なし。

満開の咲(まんかいのえみ)

令和7年度第3学年主任 **手島 直樹**

学年通信のタイトルになっていた「満開の咲」は、一年の四月に行われた赤城オリエンテーションの中で、各クラスが話し合い、持ち寄った候補の中から決定されました。「咲」の字が、古くは「笑う」という意味を持っていたことから、生徒一人ひとりが笑顔で学校生活を送り、進路実現を果たして満開の笑顔で卒業していくことを祈念するという想いが込められています。日本には古くから、願いが叶った姿をあらかじめイメージして先に祝ってしまう「予祝(よしゆく)」という習慣があります。春に桜を愛でるお花見も、実は秋の豊かな収穫を願って行われる予祝の儀式です。満開の桜をたわわに実った稲穂に見立て、先に喜び、先に笑うことで、理想の未来を引き寄せようとしてきました。卒業した三年生が歩んできた日々は、まさに自分たちの未来に向けた「予祝」の道のりであったと感じています。



その精神を鮮やかに体現していたのが、三年次の定期戦でした。決戦の地はアウェーの高崎高校。実行委員の三年生たちは、周囲から期待された「三十四年ぶりのアウェー戦勝利」という重圧のかかる言葉をあえて封印しました。代わりに浸透させたのは「昨年に続く連覇」、「これから始まる前高の黄金時代」といった、勝利の先にある高揚感を共有する言葉の数々です。悲願達成を義務とするのではなく、未来の栄光を信じて疑わない姿勢は、学校全体の士気を高め、見事に「黄金時代」の幕開けとなる連覇を勝ち取りました。



2025年9月
第79回定期戦 勝利

好敵手である高崎高校との戦いを振り返ると、夏の選手権予選三回戦(硬式野球部)も忘れることができません。試合開始前からチケットを買い求める両校の関係者が長蛇の列を作り、会場となった高崎城南球場には外野

席まで観客が溢れるほどの熱気に包まれました。九回裏四対四、ノーアウト満塁の絶体絶命のピンチを零点で凌いだ時の地を鳴らすような歓声、十回表の攻撃の際に途切れることなく続いた「イケイケ前橋」の魂の鼓舞。結果は惜敗でしたが、前高 Instagram に今も残る選手と観客が一体となって戦う姿は、困難な状況さえも自分たちのエネルギーに変えてしまう、この学年特有の逞しさに満ちていました。



2025年7月
夏の高校野球3回戦 vs 高崎高校

その他にも部活動では全国大会出場が六団体、関東大会出場が十団体と例年になく活躍を果たしたことや二年次に行われた生徒会役員選挙では会長候補に三名、副会長候補に四名が立候補し鎬を削ったことなど、高い目標を自分たちの手で掴めるものと確信して挑む、前高生らしい挑戦の現れでした。こうした前向きな意志は、後輩たちにとっても大きな道標となっただけです。三年生が残した足跡は、単なる実績以上に、本気で挑むことの尊さを学校全体に刻み込ませていきました。

今春の受験においても、その姿勢は揺らぎませんでした。志を高く持ち、旧帝大や国公立大医学科へ果敢に挑んだ多くの背中には、まさに「満開の咲」を目指す覚悟そのものでした。合格を勝ち取るための戦略的な対策はもちろん重要ですが、一発勝負の舞台で自分を信じ抜く力、そして第一志望に最後まで食らいつく粘り強さは、三年間で磨き上げた心の強さに他なりません。惜しくも浪人の道を選んだ卒業生たちも、志を維持しながらこの一年でさらに力を伸ばし、来春こそは「満開の咲」で次のステップに歩みを進めてくれると期待しています。



2026年3月
卒業式